



# 大 幼



令和6年度  
園長だより No.7  
令和6年12月6日

## 色あせない思い出

11月16日は「いい色の日」にまつわり彩りPTAで附属幼稚園の園庭は鮮やかに生まれ変わりました。実はこの日は、1876年日本で初めての官立の幼稚園が誕生したことから「幼稚園の日」でもあるのです。その日から、およそ150年という年月が流れ、幼稚園も時代の流れと共に様変わりし、大分大学附属幼稚園は、2031年に創立100周年を迎えます。

今回彩ったペンキもいい具合に年を重ねた色合いになっていると思いますが、園児たちの胸にはペンキやカレーや風船が色あせない思い出として残っていることを願っています。



## 冬を楽しみ、みんなで温まろう



学期末が、餅つき・焼き芋・クリスマスといった行事と共に押し寄せてきました。普段見かけない杵や臼・炎・サンタに謎の人物といった人や物との出会いによって、園児たちは生活の中に季節を取り入れたことでしよう。

また、もち米を蒸した香りや火が燃える色・サンタのベルの音等、五感で感じたことは、心の深いところでしばらくの間ゆっくり温められるはずです。

園児やPTAの皆さんと賑やかに過ごした園庭に、これから本格的な冬が来て枯葉の世界が広がります。また3学期もよろしく願いいたします。健やかに冬を楽しみ、良いお年をお迎えください。

## 新しい物語と出会う日



毎週水曜日は、年少・年中さんは、「かいちゃん」こと甲斐栄さんと年長さんは「ことのは」の姫野さんと出会う日です。お二人とも子どもも好きで、「いつも子どもたちから元気もらっています」と話してくれます。そんなお二人から子どもたちはいつも物語との出会いをいただいているのです。

先日の観劇会で「みにくいアヒルの子」と「金のおと銀のおの」という人形劇を観賞しました。子どもたちは、お話の肝の部分になると固唾をのんで物語に入り込み、笑いのツボでは、声に出して反応することができます。子どもたちは物語との向き合い方を経験から身に付けていると感じました。

「子どもと本」の著者である東京子ども図書館名誉理事長の松岡享子さんは、本好きな子どもを育てたいならば、「子どもたちの生活の中に本があることや大人が本を読んでやること」と話しています。私たちの附属幼稚園には絵本の部屋があります。近年各PTAサークルさんが夢の広がる環境を整美してくれていますし、来年には「かいちゃん文庫」もOPENします。附属幼稚園がもつ環境は、大きな財産なのです。